



南多摩病院 大規模災害訓練について

事務部 総務課

南多摩病院では毎年、地域の方たちと合同で大規模災害訓練を行っています。

東京都や八王子市が積極的に推進している緊急医療救護所の設置と、その中での運営として、重症度の選別や軽症者への応急処置、重症と評価された傷病者の院内への搬送、さらには院内へ収容した傷病者の初診時における対応訓練を中心として行っています。

緊急医療救護所とは？



大規模災害発生時、救急病院には多数の患者さんが来院することが予想されますが、全ての患者さんを一度に診ることはできません。

八王子市ならびに医師会では、拠点となる病院の近くに緊急医療救護所の設置を行い、院外で患者さんのトリアージや初期治療を行うこととしており、現在15か所の救護所設置が予定されています。

緊急医療救護所を設置することで、軽症者の治療を院外で行い、より濃密な治療を要する重症者・中等症者を院内に搬送することができ、救命治療の必要性が高い患者さんに対して早期にアプローチすることができます。

訓練内容



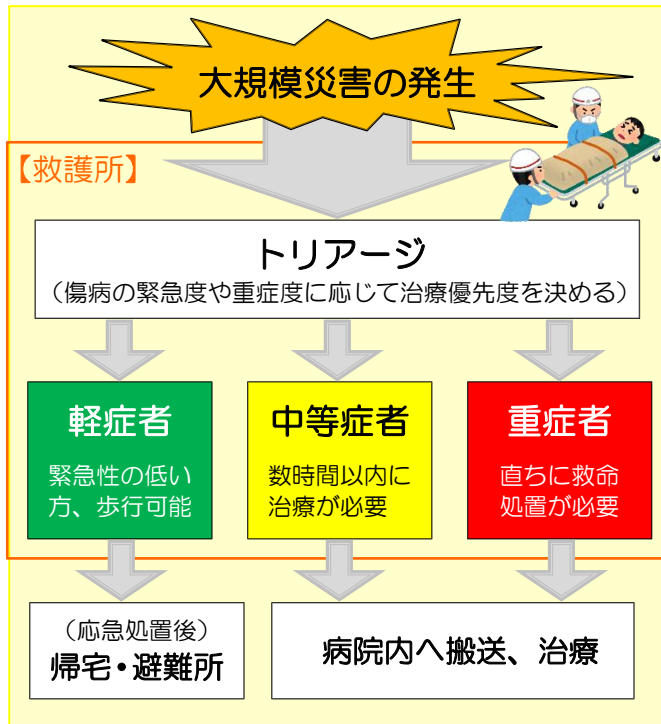
2018年3月に行われた第2回大規模災害訓練では、多摩地方を直下とする大地震が発生し、多数の負傷者が発生した想定のもと行われました。

当院からは、院長をはじめ、医師、看護師、コメディカル、事務職など90名ほどの職員が参加しました。外部からも、医師会、歯科医師会、薬剤師会、また消防署や市役所からの参加もあり、模擬患者役には地元町会と看護学校の学生さんに担当していただくなど、総勢200名を上回る参加がありました。



訓練後には、担当エリア別に検討会を行い、各部門から様々な意見が報告されました。

その中で、今回明らかになった課題や反省点もあったため、今後はこれらを改善するとともに、災害発生時に迅速かつ適切な対応ができるよう訓練を重ね、首都圏直下型地震等の大規模災害に備え、体制強化に取り組んでいきます。



医療法人社団 永生会



南多摩病院広報誌

平成31年 2月 第21号

南十字星

発行・編集 / 南多摩病院 広報誌作成委員会 042-663-0111 (代表)

〒193-0832 東京都八王子市散田町 3-10-1



「リウマチ」ってなに？ 「膠原病」ってなに？

こうげんびょう

総合内科・膠原病内科 國松 淳和

みなさまこんにちは。内科医の國松と申します。

総合内科専門医を基盤に基本的にはたいいていの病気に対応しつつ、リウマチ学会からリウマチ専門医の認定を受け、リウマチや膠原病などの病気の診断・治療にも当たっております。

リウマチとは



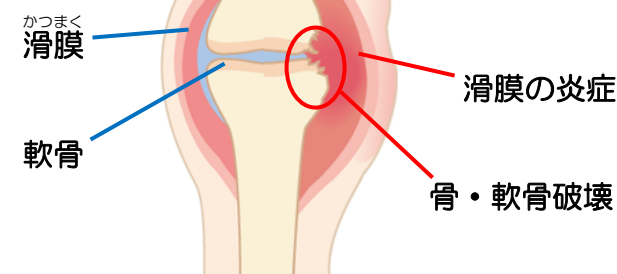
まず「リウマチ」ですが、「リウマチ症状」というのは骨や関節や筋肉の痛みなどの諸症状の総称です。そういう症状が出る一番有名な病気が「関節リウマチ」です。この病気は非常に多く、全人口の1%くらいの人がかかっているかもしれません。学生時代の同級生に1人は居るくらいの計算でしょうか。関節の周りの滑膜（かつまく）という膜や腱がひとりで炎症を起こして腫れる病気です。原因は不明ですが、身内にこの病気の方がいると、なりやすい印象があります。



総合内科・膠原病内科医長 國松 淳和 医師

正常な関節

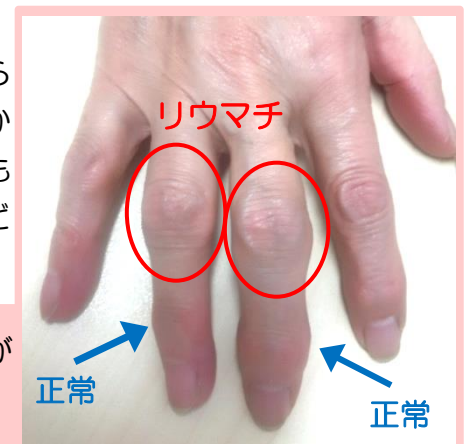
関節リウマチの関節



症状は「朝にこわばる」というフレーズが有名なのでこれを意識されることが多いですが、閉経やホルモン治療のような、身体のホルモン値が上下するような時にもこわばりは来ます。診察に来られた場合は、こうした背景がないか問診で把握します。そして、多くが年齢的なものや閉経前後の症候群としてこわばるもので、病気ではないです。

しかし、怪我もしていないのに、関節（骨と骨のつなぎ目）が見るからに腫れているというのはおかしいです。これは関節リウマチの初期症状かもしれません。手の指で始まることが多いです。指の第2関節は、もともと骨ばって太い方はありますが、そうではなく指のシワが少なくなるほどにぶよっと膨らむ感じをいいます。もちろん診察で確かめます。

丸で囲った関節は、わずかに腫れています。他の関節よりも「シワ」がなくなっています。これがリウマチの初期症状です。矢印のような、第1関節の膨らみは、どんなに出っ張っていてもリウマチではありません。



関節リウマチ患者さんの初期の関節症状

「初期」を意識するには理由があります。実は関節リウマチは、早く治療するとすごく良くなるのです。

そもそもリウマチと聞いて「内科？整形外科ではないの？」と思われる方もいるかもしれません。近年、リウマチの薬物治療の理解と質と進歩が目覚ましく、初期に内科医が管理して積極的に治療する方が良いと言われるようになって久しいのです。

医学の進歩とともに「リウマチ＝寝たきり」という疾患ではなくなりました。



膠原病とは

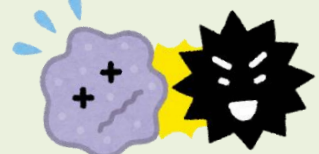


次に「膠原病」です。「こうげんびょう」と読みます。「こうざんびょう（高山病）」ではありません。高い山に登った時に体調不良になるあの病気ではありません。ちなみに高尾山も関係ありません。

膠原病は、実は病名ではありません。色々な病気の「総称」です。免疫という言葉をご存知かと思えます。免疫とは本来ウイルスや細菌などの病原体から身体を守るためにあります。それが原因不明で仕組みに不具合が起き、こともあろうに病原体ではなく自分自身の細胞や組織を攻撃してしまうのです。その結果、臓器などに様々な諸症状が出て来てしまいます。

自己免疫反応

自己の免疫が正常な細胞や組織を攻撃してしまう



身体の中で炎症反応が起こる

膠原病の症状

- ・関節痛
- ・倦怠感
- ・発熱
- ・体重が急激に減る
- ・身体がこわばる
- ・指先の色が白や紫になる …など



リウマチ・膠原病の分野に含まれる病気はさまざまであり、一つ一つ詳しく説明するのは難しいです。その中で、関節リウマチ以外で比較的多くみかける病気「リウマチ性多発筋痛症」について簡単に解説します。

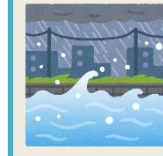
リウマチ性多発筋痛症

だいたい70歳以上の方がかかる病気です。ある日突然に身体中、特に肩や首や腰が痛くなって、痛すぎて起き上がれないほどになります。救急車を呼ぶほどの事態ではないのですが、初めは内科の病気と思わずに整形外科に行く方が多いです。痛みとこわばりのために腕を充分に上に上げられなくなります。腰回りも重くなり、両ももさえ満足に動かせなくなります。内科に行きますと大抵採血をしますから、そこでCRPという身体の炎症を示す数字が顕著に上がっていることで疑われます。きちんと診断がつけば、少量のステロイドホルモンの服用で劇的に改善します。病名が非常に不安を招く名前ですね。ただ関節リウマチとは違いますし、実際に痛んでいる場所は筋肉ではなく、滑液包（かつえきほう）といって関節を包んでいる膜でできている所です。「多発滑液包炎」と呼ぶ方が適切です。薬を必要としなくなるまで1～2年の通院が必要になりますが、治療で症状は必ず良くなります。

動作のときに…



リウマチ性多発筋痛症かも？



西日本豪雨災害への医療救護活動を実施しました。

医療技術部 救急救命士



平成30年6月28日から7月8日頃まで発生した集中豪雨は、西日本を中心に河川の氾濫や堤防の決壊、浸水害、土砂災害をきたしました。地域で暮らす200人以上もの尊い人命が失われ、約30,000棟近い家屋が倒壊・浸水し、上水道や通信といったライフラインに被害が及んだほか、交通インフラの破壊など甚大な被害をもたらしました。

活動内容

当院は、全日本病院協会と緊密に連携し、7月8日午後3時35分に南多摩AMAT第1次隊（医師1名・看護師1名・救急救命士2名）を病院救急車で陸路にて岡山へ派遣しました。医療チームは7月9日の朝から倉敷市内で活動を開始し、15日までの8日間に合計2隊（8名）が被災地内で災害医療救護活動を実施しました。

主な活動場所は、倉敷市内の真備町の浸水した地域の近くにある2か所の避難所で、活動内容としては、被害状況と避難所における医療ニーズの調査・避難所アセスメント・避難所の巡回診療ならびに定点診療・病院救急車を活用した傷病者搬送でした。

記録的な猛暑の下、浸水した家屋の整理や後片付けをされる被災者の方々の中には、手足を怪我される方も多くいらっしゃいました。また熱中症、食中毒などの感染症やエコノミークラス症候群などが懸念される過酷な環境の中、医療ニーズは極めて高い状況でした。



AMAT



今回、私たちはAMAT隊員として現地へ派遣されました。AMATとは、「災害の（急性期～）亜急性期において、災害医療活動の研修を受け、災害時要援護者にも配慮した医療救護活動を行える医療チーム」として「防ぎえる災害関連死」を無くすことを主目的として活動する、全日本病院協会 災害時医療支援活動班のことを指します。東日本大震災では、被災した民間病院に対する支援が十分に行き届かなかったことから、全日本病院協会では民間病院の連携を強固にする災害医療体制の見直しを図り、災害時医療支援活動班として「AMAT」を組織し、厚生労働省のDMATや日本医師会のJMATなどと連携して被災地内で活動することとしました。

お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたしますと共に、突然の水害に遭われ、今もなお不自由な生活を余儀なくされておられる被災地の方々に心からお見舞い申し上げます。